

庄原市西城町で、青ねぎの移植栽培が拡大!!

【平成 29 年 10 月 26 日掲載】

「ヒバゴンネギ」の産地である庄原市西城町では、青ねぎの移植栽培の導入が進んでいます。

この地域では、平成 27 年から取り組みが始まり、平成 29 年には青ねぎ生産者 15 戸中 8 戸が移植栽培を導入しています。移植栽培は、慣行の播種栽培（以下慣行栽培と表記）と比べて、在圃期間が短くなることで年間のハウス回転数が増え、また中耕や除草作業が省力化できる等の点から評価されています。

昨年度から移植栽培を試験的に導入し、今年度から全棟（27 棟 47a）移植栽培に切り替えて栽培をしている仁井慎介（にいしんすけ）さんは、「育苗費などの初期費用はかかるが、苗で植えることで春から早期に出荷することができ、夏場の欠株も防ぐことができ、安定した出荷が出来るようになった。」と移植栽培に手ごたえを感じています。

移植栽培では、夏場の育苗中に発生する「立枯れ病」や、本圃定植後に発生する「葉先枯れ」などの対策が課題となっています。

今後、北部農業技術指導所と JA 庄原は、上記の課題解決に取り組むことで移植栽培技術の安定化を目指していきます。



【出荷されるヒバゴンネギ】



【定植作業を行う仁井さん】

情報提供元

北部農業技術指導所